

## 追悼の辞

日本大学医学部において、令和元年より、医学教育および医学研究のため、系統解剖に152名、病理解剖に110名、総計262名の方々が進んで献体をされました。

この方々の追悼法要を執り行うにあたり、日本大学医学部教職員および学生を代表して、その尊いご遺志に対する深い敬意とともに、謹んで追悼の辞を捧げます。

授業や教科書で学んだ知識をもとに行う系統解剖学実習は、本当の意味で初めて人体構造の仕組みを体得し、理解する大切な経験です。約4か月にわたる解剖実習は、個々の医学生にとって、生涯にわたり忘れることのできない貴重な体験です。系統解剖実習は、人体構造を知識として習得することが大切な目的ですが、ご遺体を通して生命の尊さを改めて考える、何のものにも替えがたい貴重な時間でもあります。生命とは何かを考え、学ぶことは人間の本質を学ぶことであり、これから臨床の場で患者さんと接することになる学生にとって、最も大切な体験学習をさせていただいているといっても過言ではないと考えます。ご遺体は、医学生にとって、医師となるべく全てを教えてくださる「本当の教師」であり、ご遺体と学生との心の交流は、医師としての生涯にわたって続くものと考えております。学生は解剖実習を行うことで、医療に携わる人間としての心構え、倫理観を学び、医学の崇高な目的を自覚したことと思います。

また、病理解剖は、患者さんの生前の状態と、亡くなられたあとのご遺体の様子とを対比しながら、疾病の原因および病態を知ることであり、医学と医療の質の向上のために、貴重な情報を与えて下さいます。このような情報は、卒前・卒後の医学教育、ならびに研究においても、極めて重要であり、医学の進歩に欠かせない役割を担っています。実際に、医師の臨床研修では、病理解剖が必修事項として求められていることから、医師にとっての修練に、病理解剖が如何に重要であるかが分かります。

近年、医学・医療の進歩には目覚ましいものがあり、ますます高度で先進的な医療が提供されるようになってきました。しかし、昨年末に発生し、パンデミックに急速に拡大した新型コロナウイルス感染症では、今も多くの方が罹患し、犠牲となっている方も少なくありません。この未曾有の感染症に対し、世界中の医療に携わる人たちが臨床の現場で、あるいは研究の場で寸暇を惜しんで戦っているところです。このような状況下でも沈着冷静に、患者さん、家族の為に優れた、そして心ある医療を提供しようと努力している医療人を育てて下さったのは、医学教育、研究の推進のため、自らのお身体を提供して下さったまさに献体者の心にほかなりません。

系統解剖に、病理解剖にみずから進んで、そしてご遺族の深いご理解のもとに、医学の為に献体をされましたことに、心から敬意を感じております。皆様は、真に人類愛に生きる先覚者であり、私ども医療人を導いてくださっている先導者であると申しても過言ではありません。

私ども、医学に携わる者は、ご献体くださいました方々の尊いご遺志、ご家族の皆様のお心にお報いするため、日々感謝の念を忘れることなく、更に研鑽および努力を重ねて、人類の健康と福祉に貢献することをお誓いし、追悼の辞と致します。

令和二年十月十日

日本大学医学部次長  
相 澤 信